

2023年11月28日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【暦の上では、既に、「クリスマス相場」に突入した】

先週に日本の「勤労感謝の日」(11月23日木曜日)を迎えました。

今年(2023年)は、日本の「勤労感謝の日」と米国の「感謝祭(サンクスギビングデー)」が、同じ日(11月23日木曜日)になりました。

+++++

毎年、日本の「勤労感謝の日」(11月23日)と、米国の「感謝祭」(サンクスギビングデー、11月の第4木曜日)を終えると、「クリスマス相場」に突入します。

つまり、11月も最終週に入り、暦の上では、既に、「クリスマス相場」に突入した、ということ。

+++++

「クリスマス相場」になると、市場参加者が徐々に休暇を取り、クリスマス前後から年末年始にかけては、市場参加者がほとんどいない状態になります。

+++++

今年(2023年)の11月末の今現在は、「クリスマス相場」に入ったとはいえ、まだしばらくの間は、市場参加者が急減することはないでしょう。

そのため、今現在の時点では、いきなり値が飛ぶような相場になるリスクはまだ低いのだろう、と考えます。

しかし、それでも今年の終わりに向けて、ポジションを小さくし、リスクをミニマイズする、と意識しておくことは大切です。

『既に「クリスマス相場」に突入しているのだ』と意識をする必要がある、と思っています。

+++++

+++++

今年(2023年)の相場も、対応が難しい相場つきだった、と感じています。

ドル／円は、俯瞰して見れば、大きな上昇トレンドであり、単純に「ドル買い円売り」をしていれば、利益になった、と考えます。

ただし、日銀および財務省の「ドル売り円買い介入」が実施された場面では、大きく損失を被った市場参加者も大勢いたのだろう、と想像します。

+++++

日銀および財務省の「ドル売り円買い介入」が想定できる水準になると、「介入を装った大口のドル売り円買い」も散見されています。

これらの行為は、俗に「なんちゃって介入」などと呼ばれていますが、150円台、ないしは151円台では、たびたび「なんちゃって介入」があった、と考えます。

+++++

今のところ、152円台の最高値を更新できなかったのも、ドル／円は、「調整局面（調整の下落局面）」を迎えており、本日（2023年11月28日）のドル／円は、148円台程度で推移しています。

このまま「調整局面（調整の下落局面）」が続くのならば、「ドル買い円売り」のポジションを維持するのは難しいのでしょうし、仮に、ドル／円が上昇に転じても、150円台、ないしはそれ以上の円安水準では、再び「なんちゃって介入」が待ち構えていることでしょう。

「なんちゃって介入」ではなく、本物の「ドル売り円買い介入」ならば、その効果は、より大きいものになる、と考えます。

+++++
+++++

つまり、暦の上で既に「クリスマス相場」に突入した、今現在の状況は、非常に利益を得難い相場になっている、ということ。

来年（2024年）になっても、しばらくの間は、こういった儲けにくい相場が続くのだろう、と考えています。

その意識と覚悟を今から持って、相場に対して謙虚で丁寧な取引を心掛けることが大切だ、と感じています。

++++
++++

(2023年11月28日東京時間15:05記述)